

ユニバーサルデザイン2020行動計画について

1. 経緯

東京大会を契機として、共生社会の実現に向けたユニバーサルデザイン、心のバリアフリーを推進し、大会以降のレガシーとして残していくための施策を実行するため、28年2月、オリパラ担当大臣を座長とする「ユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議」を設置。

同会議の下に設置された「心のバリアフリー分科会」及び「街づくり分科会」における議論、28年8月の「中間とりまとめ」を経て、取り組むべき具体的施策について、2月20日、「ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議」において「ユニバーサルデザイン2020行動計画」として決定。

2. 行動計画の概要（国土交通省関連）

（1）ユニバーサルデザインの街づくり

① 東京大会に向けた重点的なバリアフリー化

空港から競技会場等に至る面的なバリアフリーを推進、東京のユニバーサルデザインの街づくりを世界にアピール

- 競技会場周辺エリア等の道路、都市公園、鉄道駅等のバリアフリー化に向けた重点支援
- 新宿、渋谷等都内主要ターミナルの再開発プロジェクトに伴う面的なバリアフリー化の推進
- 成田空港、羽田空港国際線ターミナルの世界トップレベルのバリアフリー化
- 空港アクセスバスのバリアフリー化、UDタクシー導入への重点支援 等

② 全国各地における高い水準のバリアフリー化の推進

今後の超高齢社会への対応、地方への観光誘客拡大等の観点から、全国のバリアフリー水準の底上げを図り、東京大会のレガシーとする

- バリアフリー法を含む関係施策の検討、スパイラルアップ
- 交通バリアフリー基準・ガイドラインの改正、建築設計標準の改正による交通施設・建築施設のバリアフリー水準の底上げ（鉄道車両の車椅子スペースの設置箇所数拡大、トイレ環境の整備、ホテル客室の指針見直し 等）
- 観光地のバリアフリー情報の提供促進（統一的な評価指標によるモデル評価の実施、バリアフリー旅行相談窓口の拡大 等）
- 各地の中核施設を中心とした面的なバリアフリー化（主要ターミナル等のバリアフリー化、基本構想の策定促進 等）
- 公共交通機関等のバリアフリー化（駅ホームの安全性向上、鉄道の車椅子利用環境の改善、主要空港・主要旅客船ターミナルのバリアフリー化、バス・タクシーのバリアフリー化 等）
- ICTを活用した情報発信・行動支援（歩行者のための移動支援サービスの実現、交通機関の利用にあたっての情報提供サービスの実現に向けた取組 等）
- トイレの利用環境改善（機能分散等トイレ環境の整備、トイレ利用のマナー改善キャンペーンの実施 等）

（2）心のバリアフリー

- 交通、観光分野における接遇の向上（接遇ガイドライン等の作成）と職員研修の充実 等

ユニバーサルデザイン2020行動計画 概要①

○東京大会は**共生社会の実現に向けて社会構造を変える絶好の機会**。成熟社会における**先進的な取組を世界に示す契機**
 ○「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、**社会的障壁を取り除くのは社会の責務**であるという「**障害の社会モデル**」の考え方を共有し、全国で、人々の心にある障壁の除去に向けた取組（**心のバリアフリー**）及び物理的障壁や情報にかかわる障壁の除去に向けた取組（**ユニバーサルデザインの街づくり**）を進めるべき

【行動計画 主な施策(国交省関連)】

ユニバーサルデザインの街づくり（東京）

空港から競技会場等に至る連続的かつ面的なバリアフリーを推進、世界水準での重点的なバリアフリー化を実現

○競技会場周辺エリア等の連続的・面的なバリアフリー化の推進



- ・アクセス道路について、重点整備区間を決定の上、バリアフリー化を重点支援
- ・主要な都市公園について、2020年までにバリアフリー化。特に高水準のバリアフリー化を達成するものに対しモデル事例として整備を図ることを検討
- ・主要建築物におけるトイレの実態調査(今年度)に基づき、トイレのバリアフリー化、活用を推進



○成田空港、羽田空港国際線ターミナル等のバリアフリー化の推進

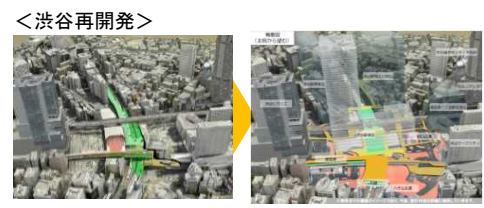
- ・成田空港・羽田空港国際線ターミナルにおける世界トップレベルのユニバーサルデザイン化に向け、今年度中に数値目標を設定し、取組を具体化
- ・UDタクシー乗降の利便性向上に向け、羽田空港国際線ターミナルタクシー乗り場の再配置を今年度中に完了

○主要鉄道駅・ターミナル等におけるバリアフリー化の推進

- ・大会関連駅のエレベーター増設やホームドア整備等への重点支援



- ・都内主要ターミナル(新宿、渋谷、品川、虎ノ門等)において、都市再開発の中でバリアフリー化を推進(2020年までの供用目標)



- ・都心～臨海部BRT計画(2019年運行開始予定)へのバリアフリー新技術の導入検討(今年度、実証実験等を実施)



○リフト付バス・UDタクシー車両等の導入促進

- ・空港アクセスバスのバリアフリー化、UDタクシーの導入促進を支援。東京23区で2020年に25%のUDタクシーを目指す
- ・オリパラ特別仕様ナンバープレートの寄付金を活用し、更なるUDタクシー等の導入促進(数値目標の見直しも検討)
- ・観光バス等の貸切バスについて、リフト付きバス等のバリアフリー車両の導入促進策等を検討



ユニバーサルデザイン2020行動計画 概要②

ユニバーサルデザインの街づくり（全国各地）

超高齢社会への対応、地方への観光誘客拡大等の観点から、全国のバリアフリー水準を底上げし、東京大会のレガシー化

○バリアフリー法を含む関係施策の検討

- 施行後10年が経過したバリアフリー法を含む関係施策について検討
- ・バリアフリー法を含む関係施策について、共生社会の推進や一億総活躍社会の実現の視点も入れつつ、平成29年度中に検討、そのスパイラルアップを図る

○バリアフリー基準・ガイドラインの改正

義務付け基準やガイドラインを改正し、**全国の交通施設・建築施設のバリアフリー水準を底上げ**

- ・交通バリアフリー基準・ガイドライン改正（29年度中目途）
- ・建築物に係る設計標準の改正（今年度内目途）



鉄道車両の車いすスペース設置箇所拡大、ホテル客室の指針見直し 等

○都市部等における複合施設(大規模駅や地下街等)を中心とした面的なバリアフリーの推進

地域の中核となる施設を中心に連続的かつ面的なバリアフリーを推進

- ・主な道路1700kmを引き続きバリアフリー化（2020年までの完了目標）
- ・更に主要鉄道駅等周辺の道路について、バリアフリー化の実態調査を実施・公表し、各市町村のバリアフリー化の取組を支援
- ・地域における重点的・一体的なバリアフリー化に資するバリアフリー基本構想の作成ガイドブックを改訂し、市町村による計画策定を促進
- ・パーキングパーミット制度の導入促進に向け、検討会を設置 等

○トイレの利用環境の改善

様々な障害のある人にとって利用しやすいトイレ環境の整備

- ・ガイドライン等を改正、利用者分散に向け機能分散・充実を促進（今年度、29年度）
- ・トイレ利用のマナー改善に向けたキャンペーンを実施



○観光地のバリアフリー化

障害のある人が訪れやすい観光地づくりに向け、観光地エリア全体の面的なバリアフリーを推進

- ・観光地のバリアフリー状況について統一指標によりモデル評価（今年度）
- ・高齢者、障害者等の旅行支援を行うバリアフリー旅行相談窓口を拡大

○公共交通機関等のバリアフリー化

鉄道、旅客船ターミナル、空港、バス・タクシー等におけるバリアフリー化の更なる推進

- ・「駅ホームにおける安全性向上のための検討会」中間取りまとめ(28年12月)に基づき、ホームドアの設置、駅員の声掛け等により駅ホームの安全性を向上
- ・鉄道の車椅子利用環境（待ち時間等）の改善（今年度中に検討会設置）
- ・ハンドル型電動車椅子の鉄道車両等への乗車要件見直し（今年度末目途に結論）
- ・主要旅客船ターミナルにおける陸上交通機関からの連続的なバリアフリー化状況を今年度中に点検し、バリアフリー化を促進
- ・関西空港、中部空港、新千歳空港、那覇空港等のバリアフリー化について、今年度中に数値目標を設定し、取組を具体化 等



○ICTを活用したきめ細かい情報発信・行動支援

ICTを活用し、障害のある人等が自立して移動できる環境の整備

- ・空港から競技会場までの移動支援に向け、今年度より、歩行者のための移動支援サービスの実証実験を実施（東京駅周辺等4箇所）。民間事業者との連携を強化し、移動支援サービスの普及を促進
- ・バリアフリールート・所要時間を提供する乗換検索システムや、鉄道車両内における障害者向け走行位置案内アプリの実現に向け、今年度に技術調査等を実施 等

心のバリアフリー

○交通・観光分野における接遇の向上と職員研修の充実

- ・接遇ガイドライン・マニュアルを29年度中に作成
- ・交通事業者等の行う研修を充実

